

# 事例から創客手法学ぶ

## 苫小牧市民ホール建設検討委

【苫小牧】苫小牧市民ホールなどの複合化を検討している仮称「苫小牧市民ホール建設検討委員会」(委員長・森保北太大学院工学研究科教授)の第4回会合が18日に開かれた。千葉市科学館と岐阜県の見本市文化創造センターを事例に、「創客」の手法や公共施設だからこそ担えるサービスについて議論した。

苫小牧市は、いずれも市街地にあり、老朽化している市民会館、文化会館、科学センター、労働福祉センター、交通安全センターを集約し、複合化して改築する方針を持っている。2015年度中に基本構想をまとめ、16年度に基本計画を策定する予定。

千葉市科学館は、百貨店閉店後の中心市街地にぎわいを取り戻そうと、市内に分散していた

子ども関連の施設を集約して建設。プラネタリウムを備えた科学館、子育て相談窓口、親子サロン、ビジネス支援センター、スパーなど構成する。科学館には多数のボランティアスタッフが配置して来場者が展示を楽しめるように説明したり、地元企業のアイデア商品や技術の紹介、大人向けの科学講座も用意してリピーターの創出を図っている。

見本市文化創造センターは、市民が分け隔てなく利用できる公共劇場を理念に掲げ、市内の中高生に観賞チケットを配布したり、年齢や国籍、障害の有無に関係なく参加できる演劇創作などに取り組んでいる。

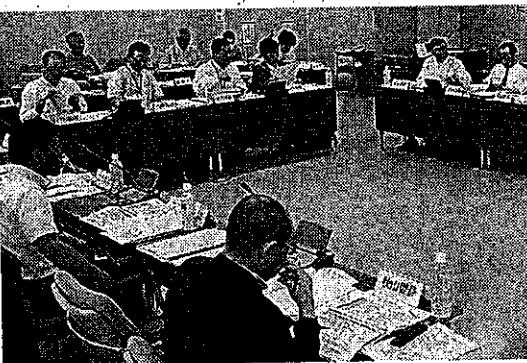
劇場が生き残るには新しい顧客を獲得する。「創客」が必要とし、文学座や新日本フィルハーモニー交響楽団と地域拠点契

約を結び、ホールでの講演のほか、学校でコンサートを開いたり、一流の文化に触れる環境づくりも進めている。

委員からは、千葉市科学館を踏まえ「最近では市民のアイデアを吸い上げ、企業化する動きが出ています。専門工具を備えた場所があると苫小牧らしい「見本市文化創造センター」については「苫小牧では、いろいろな市民がジャンルを問わずに使えるところを作らねば。コンセプトとして参考になる」といった意見が出た。

# 若年層転出抑制など

## 総合戦略推進会議で方向性素案



苫小牧市

【苫小牧】苫小牧市は19日、2回目の総合戦略推進会議を開いた。目指すべき方向性の素案として、若年層の転出抑制など3点を示したほか、戦略策定に向けた市民アンケートで、市外への進学

また、千葉市科学館は構想段階で複合化の理念がうまく共有できず、施設を稼働しながら各機能の連携を深めてきた経緯があることから、「行政の縦割りの表れ。解決すべき」といった指摘もあつた。

大学などの教育環境充実を求める声が多かったから7月9日に向け、3300票を配布。20-39歳の市民・転出・転入者・高校・大学等の学生と4つに分類し、それぞれ調査事項を設定した。

学生には就職や進学について質問。高校生の49.1%が市外の大学などへの進学を検討し、その理由として75.9%が市内に希望する学部・学科がないを答えている。市内に優良企業として思い付く企業があるか尋ねたところ、「はい」は31.2%、「いいえ」が66.9%となった。

市がまとめた将来の方向性は①市内の雇用環境維持・向上と住みやすさの改善で、若年層の転出を抑制する②子育て・教育しやすい環境を整備し、結婚・子育て世代の転入を増やし出生率を向上させる③苫小牧で暮らすメリットをPRし、交流人口やUIターンを増やす④の3点からなる。

これを踏まえた意見交換では、教育環境の充実を求めた声が続出。「駒沢大で、実際に市内でも職業としてあるような実践的な科を設けてほしい、学び、働ける仕組みをつくっては」「苫小牧市高ではインターシップに力を入れていますが、受け入れ企業が少ないと聞く。受け入れ先を増やせば、地元に残る人も増えるのでは」といった意見のほか、室蘭工大との連携、札幌への快速列車を導入し通勤・通学環境向上を図るといった提案もあつた。

11月の次回会合では、総合戦略の素案を議論する予定だ。

建設業「前回は技術者の高齢化も進んでいる。せむ若い人界では技術者の高齢化も進んでいる。せむ若い人

の企業を対象に2015年4-6月期の景気動向を調査した「スワンレポート」

実績より改善。マイナス域は脱していないが、次期7-9月はプラス域への回復を見込んでいる。調査結果はDI値を基に分析。建設業は35社が

# 軽量、高出力。

レンタル機としては国内初登場。

DUTCH MASTERS

ICE社・PVE社製  
油圧式可変高周波型  
バイプロハンマー  
ICE-18RF-TS  
PVE-24VM